

平成 29 年度第 1 回神戸市保健医療審議会 議事要旨

日時：平成 30 年 3 月 16 日（金）午後 1 時 30 分～3 時 00 分

場所：神戸市役所 1 号館 28 階市会第 4 委員会室

【議事要旨】

1. 平成 29 年度の保健医療に関する主な取組みについて（資料 3）

（質疑応答）

⑤神戸市認知症の人にやさしいまちづくり条例（案）について

●委員

地域で見守りをしているが、様々な苦情の相談がある。例えば、集合住宅の場合、隣の部屋に夜中の 1 時、2 時に行って、ドアを叩いて、うろうろしている高齢者の方がいる。また、30メートル先にある自宅の場所がわからず、会うたびに連れて帰らなければならない方もいる。家族に認知症ではないかと伝えたと、不快に思われる方もおり、関与しづらい面がある。

仲よく健康に、助け合って地域をよくしようというのであれば、自分の家族が認知症にかかっているので、気がついたら声をかけてほしい、支援してほしいということを、申告制にすれば、非常に見守りがしやすいと思う。私たちのほうから、あなたの家族は認知症ではないかと聞くと、失礼だと思われる方もいるため、難しい。その点を行政もしっかり考え、申告制にしていただくと、私たちは手助けしやすいという考えを持っているが、難しいか。

●事務局

現状は、申告制の制度はない。家族が認知症だと言にくい方もたくさんいらっしゃると思うが、特に、認知症の疑いのある方については、できるだけ早期に相談いただけるように、あんしんすこやかセンターや初期集中支援チームというのがある。初期集中支援チームは、早期の段階から認知症の方のご自宅に伺い、状況を伺いながら対応を支援している。

ただ、認知症の状態について申し出ていただくというところまでには至っていないのが現状。

●委員

例えば、防災訓練の際、要援護者を救助しようと思って訓練をする。積極的に認知症の疑いがある方が参加していただければいいが、私たちから声をかけにくいという面がある。民生委員に聞いたらいいいというが、なかなか公表されないため、誰かわからない。その辺りがネックになる。「やさしいまちづくり」という条例になっているが、やさしいまちづくりをしにくいという面がある。

●事務局

ご指摘いただいたように、ご本人・ご家族は、「認知症」という病名を出すと、受け入れにくい現状もあり、研修や、まわりの支援者、どなたが声をかけたらうまく相談につながるかというところは、体制づくりを進めていく。

もう一点、行方不明になる心配のある高齢者については、最悪の場合、事故にもなりかねないので、現在、「高齢者あんしん登録事業」という名称で、行方不明になる心配のある方には、事前にあんしんすこやかセンターに届け出ていただくと、警察とも情報を共有し、万が一行方不明になった際には、民生委員、介護保険事業者、サポーター養成講座を受けていただいた方等、捜査協力者にメールで情報を発信し、情報を警察に集めていただくという事業にも取り組んでいる。

今後一層啓発とそういった取り組みを進めていく。

⑦健康創造都市KOBÉ推進会議について

●委員

KOBÉ健康くらぶについて、当初、目標を国保対象者3,000人と予定されているが、これは来年度の目標と考えてよいのか。今後、年度ごとに対象者を増やしていくと考えてよいのか。

●事務局

来年度の目標であり、理解を得ながら増やしていきたいと考えている。

●委員

56ページについて、国保・健保組合等特定健診データに矢印がついているが、どのような連携を考えているのか。

●事務局

同意をいただいた方のデータをお預かりする。

●委員

同意した方に限って健保や国保からデータをとるということか。

●事務局

そのとおり。

●委員

企業とも連携していくということだが、参加企業を見ると、大手企業や企業体力があるところが多く見受けられる。大手企業については、健康経営を推進されているが、その一方で、中小企業、零細企業については、なかなかこのような取り組みが推進されていないと思う。

そういった中で、神戸にある中小・零細企業において、今後、どのような展開をされていくのかを聞かせたい。

●事務局

まず、健康創造都市KOBÉ推進会議への参画について、大手企業等に限定しているわけではない。神戸に思いを持つ企業・事業者に参画をいただきたいということで案内している。

中小企業の健康経営だが、協会けんぽが健康創造都市KOBÉ推進会議に参画している。協会けんぽでも健康経営の取り組みを推進されており、先日、こうべ健康経営会議という催しを開催したが、協会けんぽにも参画いただき、協会けんぽ加盟の事業所にも等しく案内をしていただいている。500人の会場だが、ほぼ埋まるような形での盛況であったので、今後、また協会けんぽが取り組んでいく健康経営の取り組みに関しても、この健康創造都市KOBÉ推進会議の中の健康経営部会を設置した後には、連携しながら進めていくということを予定している。

⑧神戸圏域地域医療構想調整会議について

●委員

病床の転換を2025年までにということ、急性期を約2,470減らし、回復期を3,725増やすということについて、圏域の見直しも含めてしているということだが、実際に急性期を減らすことができるのか。

●事務局

地域医療構想の推計結果について、この地域医療構想で示されている数字は、26年度の病院機能報告と一定の全国的なルールに基づいて必要病床数の機能を計算したときの差を

あらわしているもので、この数値を目標として転換を促していくというものではないと認識している。病床の機能転換については、各病院の自主的な判断に委ねるという方針を明確にされているので、そのように理解をしている。

●委員

圏域の見直しということで、例えば、公立病院と民間病院の統廃合ということで、加古川や姫路のほうでは、新日鉄広畑病院と姫路の循環器センターが統合されたケースもある。圏域を見直した場合、例えば、今、北区の済生会病院と三田市民病院とが統合する話も出ているが、どうなっているのか。

●事務局

圏域の設定については、現在、兵庫県の保健医療計画の改定作業の中で検討されているが、神戸圏域と三田圏域の統合という話はないと認識している。

●委員

公的医療機関等2025プランについて、病床機能の転換も含めて話をされていると思うが、すべて非公開になっている。具体的に公開されるのはいつぐらいなのか。

●事務局

公的医療機関等2025プランについては、2025年に向けてどのような機能を持つべきかということについて、この15の病院に自主的に考えていただき、その内容について協議をいただくということになっている。県からの委任に基づき、このプランについては、協議が整うまで非公開という形でしているので、ご理解をいただきたい。

●委員

小児科や産科の病院が、地域からなくなっている。長田区でいえば、産科は西市民病院しかない。小児科であれば、垂水の掖済会病院と中央区の日赤が小児科をやめる。不安があるが、そのような対処も検討されているのか。

●事務局

公的病院であれば、これは当然議論の対象になる。

●委員

公的医療機関のプランというのは、病床の転換も含めては検討されていないということか。

●事務局

それについては、非公開のため、協議が整い次第、県の許可を得て発表させていただく。

●副会長

掖済会病院の件に関しては、地元の垂水区医師会や神戸市医師会としても困るということで、署名運動も展開し、行政のほうにもお願いした。その結果として、西神戸医療センター及び神戸医療センターの小児科の充実拡大という方向が見え、ある程度のカバーはできると考えている。

2. 保健事業の進行管理について

①計画策定の見直し及び指標の設定（資料4）

②保健医療審議会の体系の見直し（資料5）

●事務局

「医療専門分科会」と「神戸圏域地域医療構想調整会議」について、委員の構成、報告事項、審議事項について、重複する部分が生じている。それぞれ、医療専門分科会の下には、例えば、災害医療体制検討委員会、救急業務の高度化に対する委員会、病床整備の検討に関する委員会、そのほか、認知症疾患医療センターに関する委員会があるが、地域医療構想会議の中でも病床機能の検討、それから新たな医療・介護連携を図るための地域包括ケアがあり、それぞれの医療分科会と地域医療構想の調整会議での審議事項等の重複する部分があるため、30年度より体系を検討させていただきたい。

「医療専門分科会」と「神戸圏域地域医療構想調整会議」の統合を検討予定と提案させていただいている。本日も議論をいただき、ご意見を踏まえて検討を進めたい。

また、再編予定の会議として、災害医療体制等検討委員会等についても、ご意見をいただいた上で、一定の下に検討をしていきたい。

(異議なし)

●会長

この方向で進めていただくということをお認めいただいた。

●副会長

保健医療審議会の体系の見直しについて、各委員会等の統合はぜひ進めていただきたい。委員の方は、忙しい中、様々な審議会委員として出席されていると思うが、似た

ような議題を似たような委員で意見を交わしたというようなことが多々あるので、統合する方向で、効率よく議論していただけるようにぜひ進めていっていただきたい。統合のタイムスケジュールは、どんなイメージか。早ければ次年度中に統合される部分も出てくるのか。わかっている部分があれば、お願いしたい。

●事務局

「医療専門分科会」と「神戸圏域地域医療構想調整会議」の統合の検討については、次年度中には、できるだけ早い時期に結論を得たいと思っている。

4. 閉 会